2022年2月16日　参議院資源エネルギーに関する調査会 会議録抄

原子力等エネルギー・資源に関する調査（「資源エネルギーの安定供給」のうち、「資源エネルギーの持続可能性」に関し、「資源エネルギーの安定供給実現への提言」について）参考人聴取

○宮沢洋一　資源エネルギーに関する調査会長　他に御発言はありませんか。

　岸真紀子君。

**○岸まきこ**　立憲民主・社民の岸真紀子です。

　三人の参考人の皆さん、ありがとうございました。

　私は、最初に石川参考人にお尋ねをしたいと思います。

　茨城県の東海村ですね。東海村の方では、誰かが考える問題ではなくて、自分の問題として村民一人一人が関心を高めるために、東海村自分ごと化会議というのを行ったみたいなんですね。無作為にというか、抽出された村民の方が参加をして、原発の賛否ではなくて、稼働の是非とかそういうことは関係なく、ある意味自分たちにできることとか、どういうふうにこの地域つくっていくのかとかというのを、ふだん感じていることとかを自由に意見交換をして、最終的には村の方に提言書としてまとめたということがあったみたいなんですよ。

　その中の提言書を見ると、原発に対する多様な考え方の人が参加した建設的な議論の場を多くつくることが大事だという提言と、もう一つは、原子力や原発に関して正確な情報の整理と共有が大事だというふうに提言をされているんですね、そこでは。

　それで、原子力についてはやっぱりその情報とかがなかなか分かりにくいっていうのがあって、先ほど参考人の方はコストが安いというふうには言いながらも核のごみの料金がどのぐらいになってくるのかとかそういうことがちょっとまだ見えないのかなと思うんですが、この情報公開というところでいうと、参考人の御意見お伺いできますか。

○参考人（石川和男　社会保障経済研究所代表）　岸先生の御指摘、これは、実は原子力のみならずほかの工場立地も含めていろんな情報開示において共通する問題かなと思うのは、例えばそういう説明会の場とかそういったことというのは関心のある方は関心があるんですね。ところがですね、喉元通りゃ熱さを何とかというような話もありますけれども、結局何かぱあっと熱くなってぱあっと消えちゃうとか、あと関心のない人は全く関心ないと。

　情報開示の分かりやすさって本当大事だと私も思うんです。じゃ、例えば原子力なら原子力、火力なら火力、再エネなら再エネということで、それぞれの主体が情報をうまく開示していると私は思っておるのでありますが、原子力についても。それは核のごみもそうです。あれもいついつまでに処分をして、その後は管理をしないのでその後は費用が掛からないとか、そしてこれは何年後に建って竣工して、これまでにこのぐらいのお金が掛かって、実際にはそういう、バックエンドというんですけれども、それについてはこれこれこういうことで原子力の発電原価の中に入っていますみたいな話というのは、実はやってはいるんですけれども、これ伝えるって本当に大変ですよね。

　関心を持っていただくまでがまず時間掛かっていて、それ、その後こんな小難しい話をひもといてやっていくと資料がこんなになっちゃったりなんかして、いろいろこうあるんで、これ恐らく国会の先生方も実際、国政報告をやられるときにすごく苦労されているんじゃないかと思うんですよ。いろんな法案とか予算案とかを説明したときに、年金制度もそうだと思います、介護もそうだと思いますが、物すごく複雑ですよね。

　あるいは、より分かりやすく一般庶民に言うというのはすごく大変なことでありまして、同じ問題がこの原子力とか再エネの問題に僕は横たわっていると思っておりますが、それによって我々説明する側が諦めては決していけないわけでありまして、そういう場をそれぞれの地域ごととかそういうところに設けていく努力は続けなきゃいかぬと思いますし、こういう、最近ではＳＮＳもありますので、そういうものを使ったうまいはやらせ方を、何というか、日々研さんしながらそういったものをどんどんどんどん発展させていかなきゃいけないと、その努力は私も続けていきたいというふうに考えております。

**○岸まきこ**　本当にいろんな情報は調べればあるんですが、やっぱり分かりにくいっていうのがあって、特にその核のごみの燃料は、企業の問題であったり、核燃料サイクルの問題とかもう本当に分かりづらいので、これ国としてどうやって分かりやすくしていくかというのが課題だと思います。ありがとうございました。

　次に、飯田参考人にお伺いをしたいんですが、飯田参考人の方に太陽光パネルのお話、私も十年ぐらい前に中国に行って、中国の場合は本当に広大な面積があって、私が見たのはタクラマカン砂漠にすごい大規模な太陽光発電があったのですが、なかなか日本ではあそこまでというのは難しいのかなと考えるところでもあります。ただ、やっぱりこれは大事なこれから進めていく施策であり、そこでお伺いしたいのですが、屋根置きの太陽光発電をこれから普及していくとしたら国にどんな政策が必要だと考えているのかというのが一点と、もう一つ、その使い終わった、さっき三十年ぐらいが使用期限だというふうに言っていましたが、その使い終わった後のごみをどうするかというのがやっぱり問題だと思うので、この点についてお伺いします。

○参考人（飯田哲也　特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所所長）　御質問ありがとうございます。

　まず、屋根置きを普及させるということに関しては、先ほどの、ＦＩＴをできればもう蓄電池プラス太陽光で、朝夕だけ高く買う、昼間は買わないというセットで、蓄電池セットで普及させると、多分ユーザー、使っている方も、うちもそうですけど、物すごくメリットもあるし実感があるので、これを是非やっていただきたいのが一つ。それから、規制を、規制というか規制プロセスを迅速化する、規制と接続ですね。それは、先ほど申し上げたように、接続は電力会社にやらなきゃいけないですし、ＦＩＴの申請は経産省なんですね。そこら辺をもう一元化し、かつクイックコネクトのようにもうすぐにできるようにすると。

　それからもう一つは、屋根を、先ほどのリノベーション・ウエーブのような形で、断熱と一緒に屋根に太陽光を載せてしまうと屋根材部分が助かるので、それを国のグリーンニューディール政策として、仕事もできるし、それから断熱をするとエネルギー貧困のサポートにもなるしという一石二鳥、三鳥にもなるセットに太陽光を入れるというと、非常に経済も活性化、コロナ禍の復興にもなるので、これはまずメリットがあると。

　もう一つは、屋根を造ると足場代が掛かるので、今は太陽光かなり安くなってきたので足場代の方が高くなるケースがあります。そうすると、ガレージの方がメリットがあるんですが、ガレージが、これは河野太郎前規制改革大臣が立ち上げたタスクフォースの中で少し議論されたんですが、一々建築確認が必要だし、それから、駐車、ガレージになると建蔽率にも関わってきたりとかですね、そこは非常に大きな壁なんですね。だから、そこをいかに迅速化、簡便化するかというところが、例えばソーラーの載ったガレージは極論すると建蔽率除外するとかしてもいいんじゃないかと私は思うんですけど、そうすると一気に普及すると思います。

　それからもう一つはですね、もう一つは何でしたっけ、済みません。

○宮沢洋一　資源エネルギーに関する調査会長　ごみの話です。

○参考人（飯田哲也　特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所所長）　ああ、ごみ、ごみ。済みません。

　ごみはですね、一応環境省が試算していて、もっと私は出るんじゃないかと思うんですが、三十年後ぐらいに八十万トンぐらいという評価が出ています。もうちょっと、百万トン出てもおかしくないんですが。

　ただ、まず比較でいうと、自動車が大体毎年五百万トンのごみが出ています。自動車も当然シュレッダー、リサイクル法で回収されていますが、いわゆる最終廃棄されるシュレッダーダストがやっぱり百万トンぐらいあります。太陽光は百万トン例えばごみに出ても、リサイクル率が九五から九八％。ガラスなりアルミなり、あと銅線なり、もちろんシリコンは大半回収、リサイクル、回収できますし、出てくるのは多分二、三トンぐらいの最終廃棄物なので、自動車ごみとあるいは家電ごみと比べれば、量的にはそれほど心配することはないですし、技術は全部確立されていますので、そこはそう心配されることはないかと思います。

**○岸まきこ**　ありがとうございます。

　やっぱりそのごみの問題が結構大きなテーマとなっているので、大分解消できる、リサイクルが大事だということで、分かりました。

　済みません、奈良林参考人にも聞きたかったんですが、時間となりましたので、質問を終わります。

　ありがとうございました。